

# セレクトィッド・ペーパー

平成13年にハワイ島で開催されたJUSTSAPで、ジョージワシントン大学のペルトン教授によって発表された論文「ミレニアム・ビレッジプロジェクト」を紹介します。このプロジェクトは、地方の経済的な開発や近代化へのプロセスを、新たなアプローチでデモンストレーションすることを目的としている。断片的ではなく、統合された形で、スマートでリサイクル可能な技術を適用するものです。現代的な技術を部分的に適用するものではなく、地方や遠隔地の村において、より良いシステムコンセプトを統合して、社会的、経済的に重要で明確な結果を求めるものである。スケーラブルで、より大きなプロジェクトのモデルにもなるようなプロジェクトを開発する。援助による開発モデルではなく、経済的に自律的なモデルの開発を目指す。スリランカの二地方村でデモンストレーションを計画している。このような経済的開発に関するものと同時に、陸域と海岸を監視するための技術、災害警報・防災・復興のための活動を含んでいる。このように持続可能な経済活動や環境保護の実現に向けた長期的な構想である。

# ミレニアムビレッジプロジェクト

---

Joseph Pelton, Robert Freling and  
Murali Nair

# プロジェクトの目的

田園地域及び遠隔地域における経済発展や近代化の統合的かつ他へ適応可能なモデルを開発することを目的とし、かつ新たな土地管理、災害警報・対策・復興のためのプログラムを開発することを目的として、ミレニアムプロジェクトを進める。



# 何故、これが新たな構想となるのか？

- このプロジェクトが様々な要素を包含しているからである。すなわち通信、教育、健康、電力、経済開発、職業訓練、土地と資源管理、災害計画・対策・復旧等である。
- 自律的な経済モデルの開発を目指す。
- 合衆国の遠隔地域や開発途上国のスケールアップな経済モデルを提供する。

# ミレニアム・モデル・ビレッジ (MMV) プロジェクトの目標1

- 遠隔地域の開発及び近代化プログラムを設計し、推進し、評価すること。そのためには個別的なアプローチではなく統合されたアプローチによって、「スマート」で再利用可能な技術を用いる。

# ミレニアム・モデル・ビレッジ (MMV) プロジェクトの目標-2

- 様々最先端の技術を組み合わせ実現する。衛星によるもの、無線ローカルループ、太陽エネルギー等を用いる。田園及び遠隔村において重要でかつ測定可能な社会的経済的な利益を生み出す。

# ミレニアム・モデル・ビレッジ (MMV) プロジェクトの目標-3

- 容易にコピーでき、より大きなプロジェクトへ適応できるようなプロジェクトを開発すること。
- 援助による開発モデルではなく、経済的に自律的なモデルの開発を目指す。



# 国際的なパートナー

The Arthur C. Clarke Institute for Modern Technologies  
of Sri Lanka and Sri Lankan Government  
Solar Electric Light Fund (SELF)

The Clarke Institute of Telecommunications and  
Information (CITI)

Communications Research Lab of Japan  
Volunteers In Technical Assistance (VITA)

Intelsat and Worldspace

Pacific Disaster Center and Asian Disaster  
Reduction Center (to be confirmed)

Others to be confirmed (i.e. NEC, UNICEF, UNHCR,  
World Food Program, OCHA, GWU, Univ. of Hawaii)



# 潜在的で新たなプログラム

- 清潔な飲料水の供給
- 情報サービス - 農業実習、天候広報、土地管理
- 遠隔教育 - 基礎教育、成人教育プログラム
- 遠隔医療
- ミクロバンキングプログラム
- ビジネスインキュベーター
- 災害警告・対策・復旧

# プロジェクトの主要技術

- ワイヤレスローカルループ(WLL)技術
- 衛星を用いた広帯域インターネットIPアクセス
- 電源のための太陽エネルギー
- 地域の遠隔教育・遠隔医療センター
- 職業訓練及びテレコミューティング(プロジェクトの一部として)

# プロジェクトのマイルストーン1

- 計画とインフラの設計
- 資金調達
- 田園及び遠隔村の選定
- ハードウェア及びソフトウェアの実装
- 主な施設の整備
- WLLネットワーク (PSTNへ接続された) の整備

# プロジェクトマイルストーン2

- 遠隔教育、遠隔医療、情報サービス、土地・災害管理プログラムと連携して開発する
- 上記サービスの配信
- ミクロバンキングプログラムの設立
- 開発の継続的なモニタリングの実施
- プログラムの評価の実施



# 設置スケジュール

- プログラムの詳細検討(2002年1月から6月)
- 資金調達及びスタッフ確保(2002年7月から12月)
- フェーズ1の実施(100世帯程度の2村)(2003年1月から12月)
- フェーズ2の実施(2004年1月12月)
- 評価の実施(2004年から2005年)

# MMV及びWARN プロジェクトの予算

- 2001年11月にハワイで開催されたジャストサップ会議で決定された共同研究に基づく開発である。JICA-UNDPデジタルデバイドファンドへ提案する準備を行っている。。

\*注:コストを削減できる場合には現地の人間を使う。

# MMVプロジェクトの評価基準

仕事の増加

健康の向上

経済開発

新たな投資や資本金の送付

インフラの改良及び社会的調和の向上

災害による被害の軽減

国際的な協力

